

事業所名		公表日			
きんぎょさん		R8年 6月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		集団で元気に活動するエリアと、個別療育やクールダウン（落ち着ける環境）のための静かなエリアをパーティション等で明確に区切るなど、限られたスペースを有効かつ効果的に活用しています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		言葉だけの指示が難しいこどもたちのために一日のスケジュールや玩具・教材の片付け場所を写真・イラストなどを用いて分かりやすく視覚的に表示しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもの特性やその日の気分、疲れ具合に合わせて、1人で静かに過ごしたり落ち着いたりできる個別の部屋やスペースをあらかじめ確保しています。	集団活動の場と個別スペースのゾーニングをより効果的に機能させ、すべての子どもがさらに安心・安全に過ごせる環境づくりを継続していくことが課題です。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		一部の管理者だけで進めるのではなく、現場の気付きや改善点をボトムアップで業務改善に反映させることで、全職員が一丸となったPDCAサイクルの推進に努めています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		終了後の打合せやミーティングを通じ、現場で働くスタッフ一同が気づいたことや意見をいつでも気軽に発言し、共有できる風通しの良い環境を整えています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	保護者向けアンケート（外部評価）の実施にあたり、日頃の感謝を伝えるとともに、趣旨や重要性を丁寧に説明して協力をお願いすることで、確実な回収と客観的な意見収集に努めています。	今後も毎年継続して外部評価を適切に実施し、PDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）を事業所にしっかりと定着させていく必要があります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成した支援プログラムや事業所の取り組み内容を、保護者や地域の方々がいつでも確認して安心していただけるようHPに公表・周知しています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		こども一人ひとりの意思や「やってみたい」という気持ちや保護者の願いを丁寧にすくい上げ何が一番の利益かという共通の軸を持って支援目標や具体的なプログラムを決定しています。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		放課後等デイサービス計画を作成する際、ガイドラインが定める「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらいを意識し、こども個人へのアプローチだけでなく、ご家族や地域社会とのつながりも含めたバランスの良い項目設定を心がけています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	特定のスタッフだけでプログラムを決定するのではなく、それぞれの強みや専門性を活かすことで、偏りのない多様なプログラムを提供しています。	現在は設立1年目の第1期目ということもあり、日々の活動や季節イベントをチームで模索しながら作り上げている段階です。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎日の打合せやチームでのプログラム立案を通じ、子どもたちの最新の興味関心や日々の反応に合わせて活動内容をスタッフ一同で柔軟に見直しています。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		1日の支援終了後に当日勤務したスタッフ一同で必ず短い打合せを実施しています。その日の支援の中で生じた小さな変化や気付いた点を鮮明なうちに共有することをしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		日々の打合せで子どもの変化や保護者の意向をスタッフ一同で共有し、計画の見直しへ柔軟に反映させています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		日々の活動や玩具・おやつ遊びで子どもが自ら意思表示し自己選択できる環境をスタッフ一同で工夫しています。	日常の小さな選択の積み重ねが本人の自立や自己決定力へ確実につながるよう、支援の手順をさらに体系化していくことが課題です。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校への迎えや送迎を行う際、担任の先生と直接言葉交わす機会を大切にしています。その日の学校での様子や心身の状態、注意すべき点などをその場で直接引き継ぎ、事業所内でのその日の支援に即座に反映させています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	自立支援協議会や専門部会などにアンテナを高く持ち持ち事業所として参加しています。地域の他の障害福祉サービス事業者や相談支援専門員との顔の見える関係づくりに努めています。	代表者が中心となって協議会に参加することが多いため、そこで得られた地域の課題や有益な情報を、参加していない他のスタッフ一同へより深く、分かりやすく還元・共有する仕組みを強化する必要がある。
保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	事業所で開催するイベントや日頃の活動への見学に保護者同士が気軽に情報交換や悩みを共有できるアットホームなコミュニティづくりが不十分である。	個別の相談対応や情報提供が中心となっているため、今後は外部の専門家を招いた勉強会や研修会を事業所主催として計画的に開催していく仕組みづくりが課題です。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		日常の支援の中で子どもが自分の気持ちや希望を表現できる場面をつくり、その声に耳を傾けながら子どもとご家族の双方の願いを反映した計画づくりに努めています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3	事業所主催で定期的な茶話会やミニ座談会を開催し、保護者同士が日頃の悩みや子育ての工夫を気軽に共有し合えるアットホームな場を設けるように努めます。また同じ境遇にある親御さん同士がつながり、安心感を得られるようなコミュニティづくりを意識していきます。	お仕事や日々の育児・送迎などで多忙な保護者の方々がため、開催曜日や時間帯のニーズを事前アンケート等で丁寧に汲み取り、より多くのご家庭が無理なく参加できるような開催方法の工夫がこれからの課題です。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者の皆様などからご意見や苦情をいただいた場合には、後回しにせずすぐに事実関係を確認し、迅速かつ適切な対応を行える体制をとっています。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		日々の活動や季節の行事、空き状況などの情報を、保護者の皆様に親しみやすいInstagramやHPを活用して積極的に発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		子どものプライバシーやご家族の個人情報を取り扱う際は、その重要性をスタッフ一同で深く認識し、日々の打合せ等でも情報の取扱いに十分留意するよう常に意識を共有しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		日頃から地域の行事や活動への参画を意識し、地域に開かれた温かい事業所づくりをスタッフ一同で心がけています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルやBCP（業務継続計画）などの各種資料をしっかりと整備・アップデートしています。事業所内の目につきやすい場所に常備しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		日々の支援の中で発生した「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりした事例は、軽微なものであっても見過ごさず、速やかに所定の記録シートに記入して集約する体制を整えています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			